

佐藤 則武（さとう のりたけ）

（雅号：佐藤 玄武（さとう げんぶ））

〔文化財保存技術（建造物漆塗）〕

昭和 24（1949）年 4 月 24 日生 （満 73 歳）

日光市在住

氏は、昭和 47(1972)年に、財団法人日光社寺文化財保存会（現在の「公益財団法人日光社寺文化財保存会」）に漆塗技能員として入会して以来、日光二社一寺の保存修理に携わり、建造物漆塗技術の錬磨に努められ、平成 25(2013)年からは、漆塗管理技術者として漆部門を統括されています。これまで、国宝陽明門をはじめ、90 棟を超える国宝・重要文化財の漆塗工事や調査に携わられています。

また、独自に漆に関する調査・研究を重ね、失われた技法や材料等の解明、復原を行い、その知見を、文化庁や東京文化財研究所等が主催する研究会や講習会等で披露されるほか、令和 4（2022）年 3 月に著書「日光の建造物漆塗」を刊行されるなど、伝統的な技術の解明や普及、後進の育成などに大きく貢献されています。

さらに、いずれも国宝の出雲大社本殿、宝厳寺観音堂、延暦寺根本中堂などで技術指導や調査等を行うなど、氏の幅広い活動は「文化財を支える伝統の名匠」として高く評価され、令和 4（2022）年 10 月 31 日に、国の選定保存技術（建造物漆塗）の保持者として、個人では初めてとなる追加認定を受けられました。